保 健 体 育 科 部 会

研究主題 **豊かなスポーツライフの基礎を固める体育学習**
～幼保・小・中・高の連携を通して～

1　主題について

昨年度，大館市を会場に，秋田県学校体育研究大会大館北秋田大会が行われた。研究の重点として「生涯にわたって運動に親しむ能力の育成」「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」「コミュニケーション能力及び論理的思考力の育成」の３点を柱に取組を行った。成果を確かなものにするために本年度もこの研究テーマを設定した。

2　今年度の取組

月　　日	実　践　内　容	月　　日	実　践　内　容
４月１１日	第１回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	１０月２９日	第２回総合研究会 授業研究会（大館南中学校）

3　研究内容

⑴　授業研究

・期　日　　平成２５年１０月２９日（火）
・会　場　　大館南中学校
・単元名　　２年「球技」: バレーボール
・授業者　　菅原　洋一

【付箋紙のアドバイスをもとに話し合い】

①　授業者から

・本時は「思考・判断」を評価のねらいとして授業を組み立てた。技能と知識・理解というベースがしっかりしてこそ「思考・判断」の授業が成り立つということを実感している。
・付箋紙を使った授業は昨年から行っている。２年生はだいぶ慣れてきている。相手を見ないと書けない。自分たちへの気付きにもつながっている。
・各チームでめあてを立てさせたが，めあては２～３つ出てくる。１つでもよいと思うが，生徒たちにはあれもこれもという思いが出てくる。めあては１つにしぼった方がいいのか。
・チームの課題も大事だが，個のめあても大事だと考える。チーム練習でも個の練習とチームの練習に分かれている班もある。個と集団のめあての兼ね合いが難しい。

②　協　議

・「思考・判断」をねらいとする授業で，付箋紙は有効であった。言語活動を行う上でも有効であった。班の話し合いでは，他の班から書かれたものを実際に見ているのでチームの立てためあてに沿って話し合うことができていた。書く方も正しく見ていないと書けない。その際，見る側にしっかり視点を与え，めあてからずれないようにさせたい。教師が，どんな活動でねらいに近づけていくか。
・「思考・判断」のねらいで，１時間で「見つける」と「選ぶ」は難しい。「技能」と「知識・理解」がないとできない。
・練習方法を見つけるというのは至難の業である。本時のねらいは，練習方法を選択するというのが適切ではないか。生徒から出てくる課題を予想して練習方法を準備しておけばよかったのではないか。指導要領には「練習方法を選ぶ」とある。これが本来の姿であると思う。
・練習の仕方について，本時までの間に植え付けておくのが教師の指導である。課題を子どもたちに決めさせるのも大切であるが，「ボールに正対する」「定位置に戻る」という技能面で身に付けさせたいことを教師側がもっておかなければならない。そうすれば，解決する手立てが見えてくる。
・課題を見つけるのは難しい。いろいろな練習をさせて，個人技能を高める時間が必要である。球技はボールに触れる回数を多くする。教師側がどういうミニゲームを準備するかが大事ではないか。（コートの広さ，ネットの高さ，人数など）

・３回返球を意識すると４対４のゲームがいいのではないか。１年生は積極的に教師が指導してかかわり，２，３年生は単元の前半に人数を少なくしたミニゲームを行ってもいい。
・思考は時間を伴うため，プレーが早すぎて追いつかなかった。めあてをキーワードで示し，ゲーム中にチーム内で課題を確認したり，ワンプレーごとに振り返ったりする場面も必要である。
・ラリーの解釈が難しい。初期の段階ではラリーを続けることを目的とし，最終的には空いている所をめぐる攻防であるラリーを止めるゲームを目指していく。

【課題をもとにチーム練習】

⑵　テーマ研究（各校の柔道及びダンスの実践や課題について，情報交換を行った。）

⑶　指導助言（佐藤　勇一　指導主事）
①非常に明るく，授業に対して大変意欲的な生徒たちである。また，終末の振り返りの発表では，他の班からもらったアドバイスを入れて発表したり，次時の練習方法まで発表したりしていた。その様子から生徒たちがよく育っていると感じられた。教師と生徒の信頼関係もよく，学習カードへのコメントやシールが，更に信頼関係を深めていた。
②技能を向上させたり，練習方法を選択させたりするために，教材・教具がよく準備されていた。
③昨年度のめあてを掲示していることから，言葉の積み重ねを大事にしている指導がうかがえる。付箋紙を使って生徒同士が課題や練習方法について話し合う活動は，生徒の論理的思考力を育むための有効な手立ての一つになっていた。
④系統性を重視した授業を考えてもらいたい。小学校段階でどんな指導をしているか確かめるために，インターネット上で配信されているデジタル教材高学年体育（ソフトバレーボール）を参考にするのもよい。
⑤本時のねらいにせまるために以下のような方法がある。
・ラリーを重視するには，時間の確保が必要である。用具を工夫したり，ワンバウンドを認めたり，セッターのキャッチを認めたりするなどルールを工夫したりしながら時間を確保し，「準備姿勢」「定位置に戻る」「ボールに正対する」というラリーを続けるための３つのポイントを意識させるという方法もある。
・「思考・判断」なので，４対４のゲームにして分析者をチーム内で作るのもよい。
・小さいホワイトボードを使って，磁石を動かして作戦を立てさせるのも，生徒の思考を促す手立てになる。作戦がうまくいったかは，あえて同じチームと対戦することで実感することができる。
⑥準備運動で行ったインディアカや円陣パスでは，人数を少なくすることでラリーを体感したり，技能を高めたりすることにつながる。インディアカでは，両手で操作する生徒がいた。その生徒を褒めることにより，安定した用具の操作に結び付ける方法もある。
⑦体育は豊かな人間性をもち，自ら学び，自ら考えるという生きる力の３要素を育むことのできる教科である。授業を通して，「技能」「態度」「思考・判断，知識」の能力を培うことにより，ますます運動することが好きになり，健康への価値観を見いだし，豊かな人間性を養い，社会に出てからもいきいきと活躍する子どもたちを育ていきたいものである。

４　成果と課題

⑴　成　果
・生徒の論理的思考を育むための言語活動として，付箋紙の活用が有効であった。記入については，教師の視点のもたせ方が重要であることを確認できた。
・「思考・判断」をねらいとする授業で，改めて「技能」と「知識」を身に付けておくことの必要性について理解を深めた。

⑵　課　題
・系統性を重視した授業の在り方を検討していくこと。